

柿生の採集記録

中山 周平・岩田 芳美*¹

The recent collection of insect at Kakio

Shuhei Nakayama ・ Yoshimi Iwata

主に1930年代から1950年代にかけての中山周平の柿生における採集記録は、中山(1998)「柿生 里山は今」、川崎市青少年科学館紀要第12号(2001)にある通りである。今号に記載のガやハチなどに付いても採集状況を記録として纏めた。

I. ガの採集環境

大半が現川崎市麻生区片平の中山の生家周辺で採集をしたものである。1930年代時、生家近辺に外灯は無く灯

下での採集はおこなわなかった。この状況は1950年代まで続く。大半のガは屋間の雑木林における見つけ採りである。西生田とあるものは現読売ランド方面に続く道沿いの手入れされた雑木林の林縁で採集したもので、ガは多かったと記憶している。現在のようなライトトラップ等を使用した採集をおこなっていたら、高尾山頂などと同じくらいの採集が出来たと思う。

当時の柿生周辺の緑の色の深さは、当時の那須よりも濃かったと記憶している。

II. 目録へのコメント

鱗翅目 LEPIDOPTERA

コウモリガ科 HEPIALIDAE

コウモリガ *Endoclyta excrescens pallescens* Tshistjakov

夕方飛翔するのが目撃された。

スカシバガ科 SESIIDAE

コシアカスカシバ *Sesia scribai* (Butler)

雑木林内の道路脇、高さ1 mほどの崖上に生えた直径10cmのコナラの、地上50cmの樹皮から羽化したばかりの個体である。(神奈川県内唯一の採集記録である)

セミヤドリガ科 EPIPYPIDAE

セミヤドリガ *Epipomponia nawai* (Dyar)

ヒグラシによく寄生していた。

ハゴロモヤドリガ *Epiricania hageromo* Kato

ベッコウハゴロモ、テングスケバに寄生したハゴロモヤドリガ幼虫を採集した。前者は羽化した成虫を、後者は寄生状態の寄生幼虫標本とした。(共に珍しい記録である)

カイコガ科 BOMBYCIDAE

クワゴ *Bombyx mandarina* (Moore)

柿生では養蚕は盛んだったが幼虫はあまり多くなかった。(現在ほとんど採集は困難である)

ヤガ科 NOCTUIDAE

コシロシタバ *Catocala actaea* Felder & Rogenhofer

雑木林を歩くとよく飛び立ち、後翅の白紋が目立った。

ハチ目 HYMENOPTERA

スズメバチ科 Vespidae

クロスズメバチ *Vespula flaviceps lewisii* (Cameron)

* 1 かわさき自然調査団

秋、土中の巣をムギわらでいぶして掘り出し、幼虫、蛹をほうろくで煎ってそば汁に入れて食べた経験がある。ごく珍しい稀な行事。(川崎市内での食用の記録としては重要である)

コシブトハナバチ科 Anthophoridae

クマバチ *Xylocopa appendiculata circumvolans* F.Smith

農家の縁側寄りの軒下、横木に多くの営巣をみた。

ラクダムシ目 RAPHIIDIOPTERA

ラクダムシ科 Inocallidae

ラクダムシ *Inocellia japonica* Okamoto

幼虫を樹皮下で冬にみた。

アアミメカゲロウ目 NEUROPTERA

ツノトンボ科 Ascalaphidae

ツノトンボ *Hybris subjacens* (Walker)

雑木林の周辺の草地で成虫と卵塊をよく見かけた。木漏れ日の当たる林内路上で幼虫を見たことも。(観察記録としておもしろい記録である)

Ⅲ. 参考文献

中山周平(1998). 柿生 里山は今.194pp. 朝日新聞出版サービス.

中山周平・岩田芳美・苅部治紀・川田一之・脇一郎・鈴木瓦(2001). おもに1930年代から1960年代に川崎市及び周辺で採集された昆虫類について. 川崎市青少年科学館紀要(12): 89-107.